

不妊に悩む方への特定治療支援事業の実施医療機関  
(採卵・胚移植を行う医療機関) における情報提供様式 (必須記載)

医療機関名：医療法人杏月会 空の森クリニック

配置人員 (※1)	産婦人科専門医		( 6 ) 名	
	うち、生殖医療専門医		( 4 ) 名	
	泌尿器科専門医		( 0.02 ) 名	
	うち、生殖医療専門医		( 0.02 ) 名	
	看護師		( 40 ) 名	
	胚培養士/エンブリオロジスト		( 10 ) 名	
	コーディネーター		( 0 ) 名	
	カウンセラー		( 8 ) 名	
治療内容 (※2)	治療の種類	年間実施件数 (2,021年)	費用	
	人工授精	( 1,763 ) 件	( 29,000 ) 円	
	体外受精+新鮮胚移植	( 504 ) 件	(525,000~875,000) 円	
	凍結融解胚移植	( 1,192 ) 件	(140,000) 円	
	顕微授精	( 562 ) 件	( 50,000 ) 円	
	精巣内精子回収術	( 1 ) 件	( 210,000 ) 円	
実施事項	自医療機関の不妊治療の結果による妊娠に関して、公益社団法人日本産科婦人科学会における個別調査票（治療から妊娠まで及び妊娠から出産後まで）への登録を行っている。		(はい)	
	自医療機関で分娩を取り扱わない場合には、妊娠した患者を紹介し、妊娠から出産に至る全ての経過について報告を受ける等、分娩を取り扱う他の医療機関と適切な連携をとっている。（自医療機関で分娩を取り扱っている場合は回答不要）		(はい)	
	医療安全管理体制が確保されている			
	①	医療に係る安全管理のための指針を整備し、医療機関内に掲げている	(はい)	
	②	医療に係る安全管理のための委員会を設置し、安全管理の現状を把握している	(はい)	
	③	医療に係る安全管理のための職員研修を定期的に行っている	(はい)	
	④	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を講じている	(はい)	
	⑤	自医療機関において保存されている配偶子、受精卵の保存管理及び記録を安全管理の観点から適切に行っている	(はい)	
⑥	体外での配偶子・受精卵の操作に当たっては、安全確保の観点から必ずダブルチェックを行う体制を構築しており、ダブルチェックは、実施責任者の監督下に、医師・看護師・胚培養士/エンブリオロジストのいずれかの職種の職員2名以上で行っている。	(はい)		

倫理委員会を設置している ※委員構成等については、公益社団法人日本産科婦人科学会の会告「生殖補助医療実施医療機関の登録と報告に関する見解」に準ずる	(はい)
公益財団法人日本医療機能評価機構の実施する医療事故情報収集等事業に登録・参加している	(いいえ)
不妊治療にかかる記録については、保存期間を20年以上としている	(はい)
里親・特別養子縁組制度の普及啓発等や関係者との連携を実施している	(はい)

毎年3月1日時点の状況について記載すること。

ただし、「年間実施件数」については、記載可能な直近の1年間のものを記載すること。

(※1)

- ・不妊に悩む方への特定治療支援事業の実施医療機関における設備・人員等の指定要件に関する指針(別紙1-1)の「実施医療機関の配置すべき人員の基準」を遵守し、正確に記載すること。
- ・人員の算出は、常勤換算で行うこと。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している医師を常勤医師とし、その他は非常勤医師として常勤換算する。(医療法第25条第1項)
- ・胚培養士/エンブリオロジストについては、生殖補助医療胚培養士又は臨床エンブリオロジスト等の認定を受けている者又は大学において胚培養に関する専門的な教育を受けた者であって胚を取り扱う業務に従事しているものを記載すること。ただし、産婦人科専門医又は泌尿器科専門医が兼務している場合は、人数に含めない。
- ・コーディネーターおよびカウンセラーについては、産婦人科専門医・泌尿器科専門医・看護師・胚培養士/エンブリオロジストが兼務する場合には、コーディネーターおよびカウンセラーには含めないこと。

(※2)

- ・人工授精は、月経周期開始から人工授精実施、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、卵巣刺激等にかかる費用も含めた総額(標準的な費用)を記載すること。
- ・体外受精+新鮮胚移植は、卵巣刺激、採卵/採精、前培養/媒精/胚培養、新鮮胚移植、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期にかかる総額(費用が比較的低い患者と高い患者の場合)について記載すること。
- ・凍結融解胚移植は、凍結胚の融解、移植、黄体補充、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期にかかる総額(標準的な費用)を記載すること。
- ・顕微授精にかかる費用については、未受精卵1個に対し、顕微鏡下に精子を注入する手技のみにかかる標準的な費用を記載すること。
- ・精巣内精子回収術は、SimpleTESEをさす。費用については、手術にかかる標準的な費用を記載すること。

別添 1 - 2

不妊に悩む方への特定治療支援事業の実施医療機関における情報提供様式（任意記載）

本項目についての記載は、必須ではありません。下記記載様式を用いて、可能な範囲で記載して下さい。

医療機関名：医療法人 杏月会 空の森クリニック

治療実績について

※ 施設における、不妊治療による治療成績を記載して下さい。

（記載様式）

当院において、データの揃っている直近の1年間（2021年1月から2021年12月まで）に、治療開始時点において35歳以上40歳未満である女性に対して実施した治療の実績は以下の通りである。

【新鮮胚（卵）を用いた治療成績】

	IVF-ET	Split	ICSI	合計
採卵総回数（回）	161	247	595	1,003
移植総回数（回）	4	0	12	16
妊娠数（回）	1	0	3	4
生産分娩数（回）	0	0	1	1
移植あたり生産率（%）	0	0	8	6

IVF-ET：採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施

Split：採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施

ICSI：採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施

【凍結胚を用いた治療成績】

	融解胚子宮内移植
移植総回数（回）	1,189
妊娠数（回）	313
生産分娩数（回）	87
移植あたり生産率（%）	7

来院患者情報

※ 施設を受診した患者数について記載して下さい。

（記載様式）

データの揃っている直近の1年間（2021年1月から2021年12月まで）に体外受精・顕微授精・胚移植を行った患者数（実数）は

25歳未満：（ 0）名

25歳以上30歳未満：（ 27）名

30歳以上35歳未満：（ 220）名

35歳以上40歳未満：（ 592）名

40歳以上43歳未満：（ 601）名

43歳以上：（ 752）名

データの揃っている直近の1年間（2021年1月から2021年12月まで）に精巣内精子採取術を行った患者数（実数）は

20歳未満：（ 0 ）名

20歳以上30歳未満：（ 0 ）名

30歳以上40歳未満：（ 0 ）名

40歳以上50歳未満：（ 1 ）名

50歳以上：（ 0 ）名

## 治療指針について

※ 施設における統一された治療指針がありましたら記載して下さい。

（治療指針の例）

- ・治療のステップアップ・ステップダウンに関する考え方
- ・年齢に応じた治療の選択
- ・調節卵巣刺激法（自然周期・低刺激、高刺激等）の選択

等

妊娠できないこと、不妊かもしれないと思うことは、ご自身にとって、そしてお二人にとって大きなストレスとなり、月経が来る度に落胆を繰り返し、毎日の生活に潤いをもてなくなる一つの要因となっているのではないのでしょうか？

不妊について考えいくストレスを如何に減らしていけるかを考え続けた結果が、緑に囲まれてできるだけリラックスしてすごせる空間として空の森クリニックを作り上げました。

ここでは、疲れた心を空っぽにして、森の中でゆっくりと自分のこれからについて考えていくことができるよう、皆様をお待ちしております。

当院では、妊娠を望むカップルに対し、まずはしっかりと体づくりを行うことを軸に、お二人にとっての幸せとは何か？ということを中心に、治療方針を組み立てていきます。そのため、なかなか妊娠できていない原因を詳しく検査し、その結果から総合的に判断して適切な方法を提案させていただくことが特徴です。

当院ではまず、一般血液検査、ホルモン検査、経膈超音波検査、卵管造影検査、精液検査など基本的な検査に加え、性交後試験（フナーテスト）、抗精子抗体検査、子宮鏡検査を実施することができます。

これらの検査を元に、これまでの不妊治療歴や年齢などから治療方法の軸を決めていきます。必要な栄養についての食生活指導やサプリメントの活用、生活スタイルの見直しなどを行い、タイミング指導や人工授精法に適切な、排卵誘発を併用しながら実施いたします。

卵管が閉塞して不妊になっている方には、日帰り手術として卵管鏡下卵管形成術（FT）や短期入院での腹腔鏡下卵管形成術なども積極的に行っています。

また、長期の不妊や高度の男性因子、卵管閉塞、子宮内膜症などで妊娠しづらい方を中心に、体外受精、顕微授精、胚移植（融解胚移植）という高度生殖医療にも力をいれて取り組んでいます。

卵巣機能に応じて、できるだけ効率の良い方法を熟慮し、治療中のホルモンバランスを細かくチェックし、最適な排卵誘発剤を選択して、安全性の高い治療を実践しています。また、お二人の受精卵に適した培養液を考慮し、タイムラプス機能をもった培養器で、受精卵に最もストレスのかからない方法で丁寧に培養を継続します。

さらに、よい受精卵を何度移植しても着床できない難治性不妊症の方には、MRI を使用して子宮動能検査、子宮内膜受容能検査、慢性子宮内膜炎検査、免疫機能検査、血液凝固因子や自己抗体検査などの精密検査を実施することも可能です。

これらの治療に加え、子宮筋腫、内膜ポリープ、卵巣腫瘍、子宮内膜症、卵管水腫などが不妊の原因となっている方には、子宮鏡や腹腔鏡を使用した内視鏡手術を日帰りまたは4～5日間の短期入院で行うことも可能です。

高度の男性因子がある方においては、男性不妊の専門医（泌尿器科医師）診療も行っております。ホルモン検査、精巣の超音波検査、生活指導などに加え、ホルモン療法、性交障害、ED治療、サプリメントの活用についてもご相談ください。

不妊症だけでなく、流産を繰り返す不育症についても相談していただくことが可能です。流産するかもしれないという不安に対し、まずは安心して通っていただくことができる環境がもっとも大事であると考えています。しっかりと精査し、必要な治療について相談していくことができます。

これまでの不妊治療についての悩み、抱える不安については不妊専門看護師や臨床心理士によるカウンセリングを行うことも可能です。

心身を充実してお二人の健康を基礎に皆様のストレスをできるだけ軽減して不妊治療を行っていただけるよう準備しております。